

令和二年二月一日発行（毎月一回）日
書象 第六十八巻 第二号 通巻七七一号

書象

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 藤原 正行
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
E-MAIL sho@sho-japan.com



日本書道芸術協会

2020-2

巻頭言

書象展を楽しもう

副理事長

樋口玄山

古くからの書象展図録の信山先生のページを広げています。そして楽しんでいきます。あの信山流が、精神はそのままで年ごとに変わっていきます。この輝きは何なのでしょう。苦悩する芸術家のやむにやまれぬ表現でしょうか。だとすれば、その昇華は美しすぎます。どんな思いをその作品に託されたのでしょうか。いろいろと考えてしまいます。見飽きません。この永い継続の中で日々新たなもの確かなものを追い求める姿、これは書象会員の学習の目標であり精神なのだと思えます。

書象展は、書象会員全員が出品する年に一度の展覧会として位置づけられています。五十九年前、上條信山先生の書に対する理想を世の中に問うべく産声をあげ、今や毎年の出品数が千点をはるかに超える大展覧会に成長してきました。信山先生のお心が世に受け入れられた証です。書象展は会員にとって言わば年に一度のお祭り、一作に全精力傾けてこれが自分という作品を仕上げたいものです。書象誌で競書中心に勉強されている方も、作品発表の良い機会となります。新たな挑戦があれば新しい自分を見つける楽しみもあります。出品

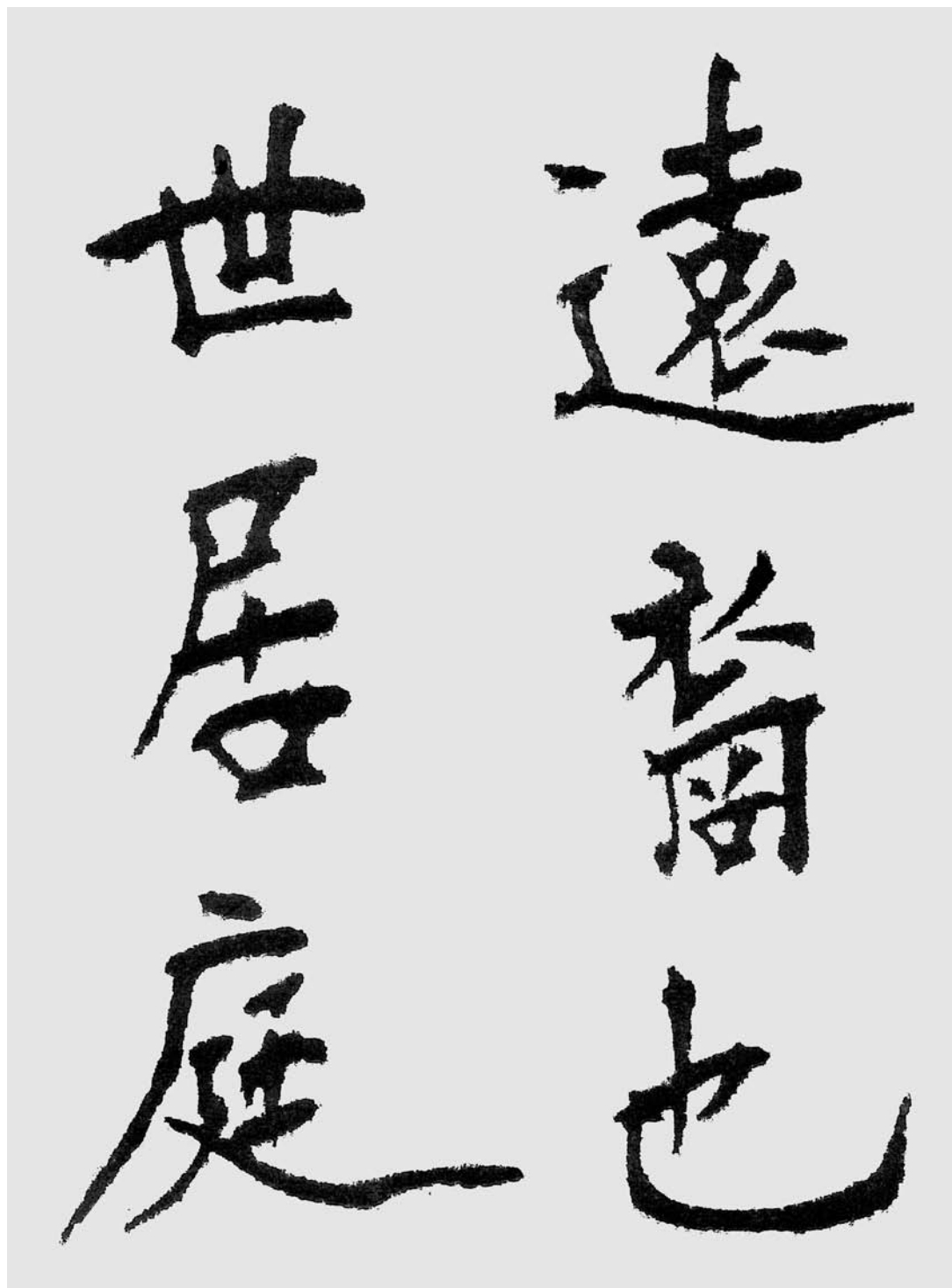
一九七六年 第十五回書象展 西郷南洲句

上條信山先生書

に関して書象会本部に遠慮なくお問い合わせ下さい。

ワンチーム。昨年、国中が夢中になった日本ラグビーチームの言葉でした。書象会員一丸となって第五十九回書象展を盛り上げてまいります。





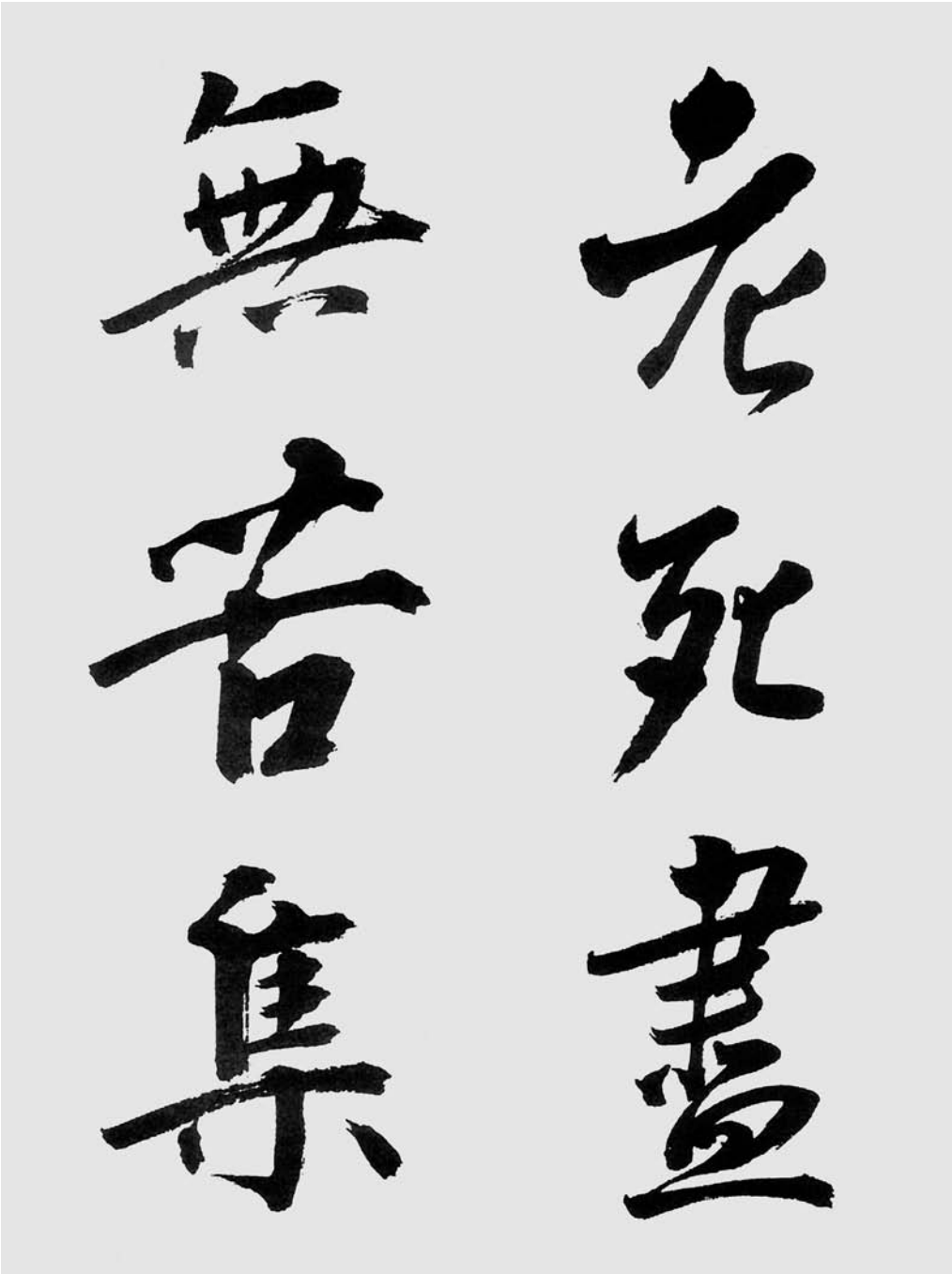
遠裔也世居庭

2月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】（師範・準師範・段位）

集王聖教序

上條信山先生書



老死の盡くることも（無し）苦集（滅道も）無く

2月20日必着
出品券を貼付

・文字の大小・中心に注意して、動きのある作品に仕上げる。

老…上部の空間を広く

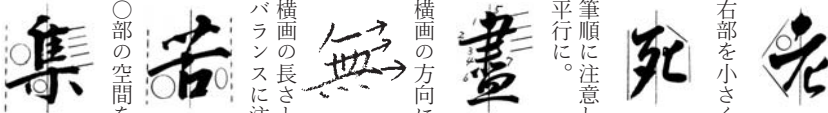
死…右部を小さく。

盡…筆順に注意し横画を平行に。

無…横画の方向に注意。

苦…横画の長さとおとのバランスに注意。

集…○部の空間を広く。





・文字の中心と大小に気をつけ、腕を大きく動かして書きたい。

智：「矢」を縦長に、

「口」を横広に、

「日」は文字の中心よりも右側に寄せて動きを出す。



亦：画数が少ないが筆脈を大切にして流れを出す。



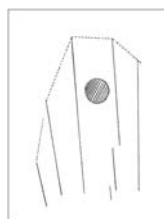


の(能)こりたる雪に(二)ま(万)じれるうめ(免)の花
は(者)やくな(那)ちりそ(所)ゆきは(八)け(介)ぬ(奴)とも(毛)

(万葉集)

2月20日必着
出品券を貼付

全体構成は左図参照。



・流れが止まらないようにする。



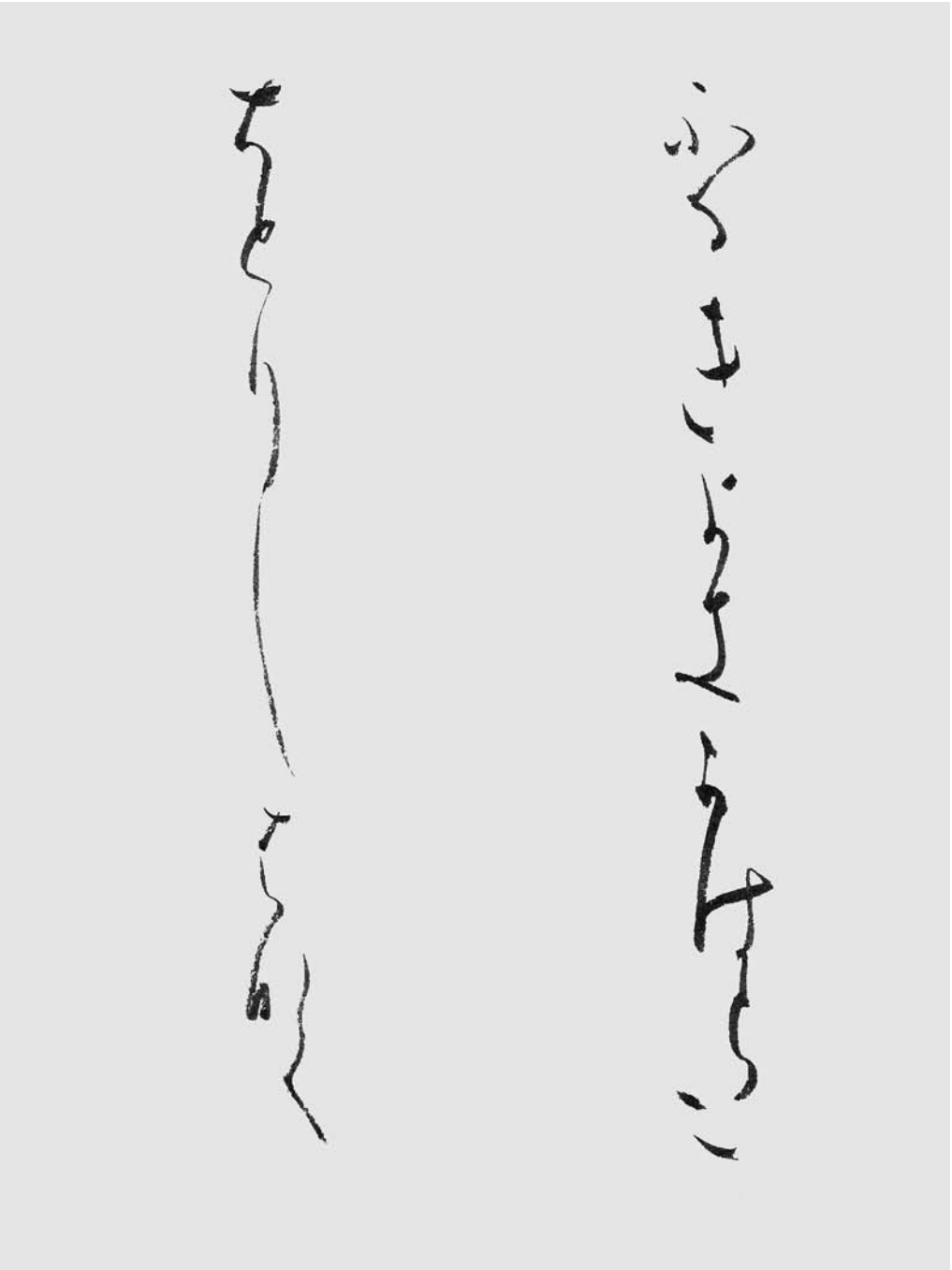
・一行目、四行目に含墨し、全体を引きしめる。

・各行の書きだしの位置に注意したい。

・二行目から三行目への渴筆部分は細くならないようにする。

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



ふるきよき（支）か（可）はらに（二）
ちどりしば（者）な（那）く（赤人）

・二字、三字、四字連綿の順に部分の練習をする。

・行の中心を意識しながらも、字幅の変化に注意して流れを出したい。

・縦に長くのびる「りし」部は細くならないようにする。

「か（可）はらに（二）」



花落ちて暁風静かに
鳥啼いて春日遅し

望山



花落ちて暁風静かに
鳥啼いて春日遅し

(王都中句)

2月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

・文字を左傾にして上下のリズムをつける。
(縦画は垂直にしな
い)

・漢字、ひらがな共に
同太線で書くよう心
掛ける。

・点画をハッキリ示し、
重厚な風格に表現し
たい。



風花雪月（鄭谷句）自然の美しさを讃えた語

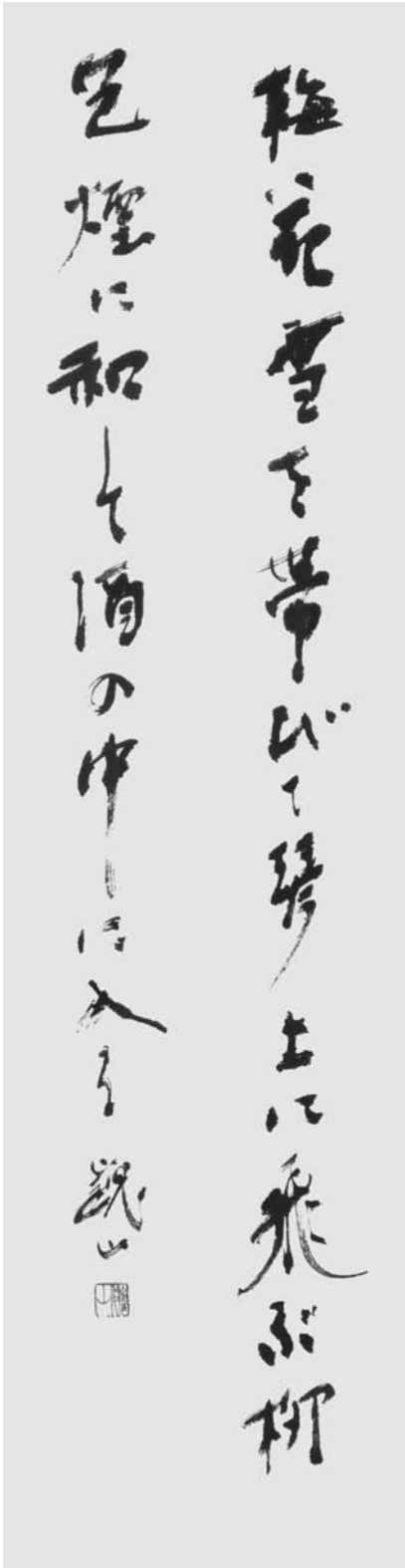
- ・風 構えをスピーディに。
- ・花 二つの点を離して勢いよく。
- ・雪 雨かんむりを重厚に。
- ・月 思いきって縦長に。二本の縦画をスピー
ド豊かに。

条幅随意【条随】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



梅花雪を帯びて琴上に飛ぶ
柳色煙に和して酒の中に入る

（章考標）

- ・信山パリの行書に調和するような曲線で行意のある平仮名を表現する。
- ・文字の大小長短を意識し、一気に書いて流れを出す。
- ・「梅花雪」「煙」「酒」はP14参照。

空冷た
空気が

中学一年規定 【学毛】

露崎玄峯先生書

思近
考代
的

中学二・三年規定 【学毛】

内藤望山先生書

心待

小学五年规定 【学毛】

畑中高山先生書

雪降

小学六年规定 【学毛】

荻田光山先生書

心志
風光

小学三年規定 【学毛】

山口啓山先生書

作曲
の
家

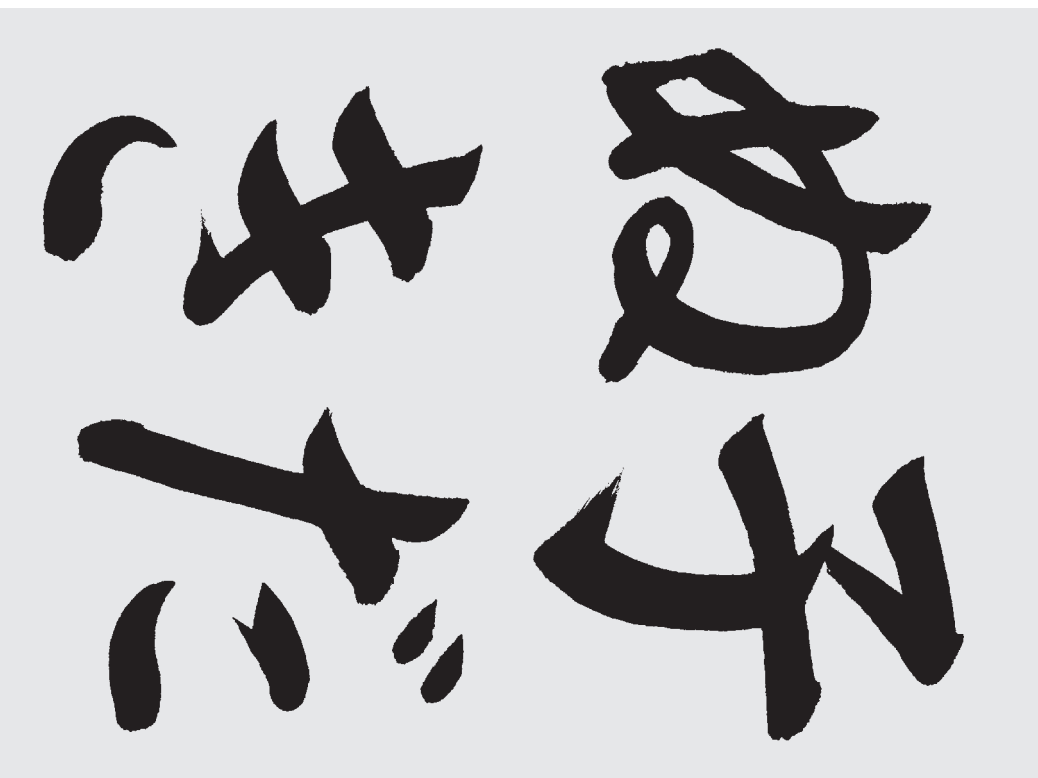
小学四年規定 【学毛】

大澤精光先生書



小学一年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書



小学二年規定 【学毛】

渡辺華雪先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

人間の徳はその異常な努力によってでなく、その日常の(能)行為によって測定されるべきも(毛)のである。(パスカル)

人間の徳はその異常な努力によってでなく、その日常の行為によって測定されるべきも(毛)のである。(パスカル)

一般規定【一硬】(級位)

藤岡 月華 先生書

『万葉集』は、奈良時代の末期に成立したと見られる日本に現存する最古の和歌集である。

中学規定【学硬】

二瓶 嶽風 先生書

私達の学校では、多摩湖一周の耐寒健歩会を実施し、心の強さを養っています。氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小 一・二年 学	人	小 三・四年 学	道
小 五・六年 学	品格	中 学	仏像

手本解説

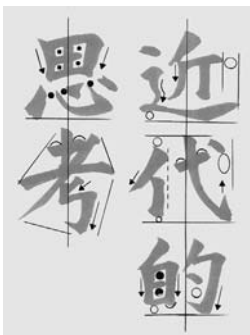
・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「異常」「行為」は左図参照。

異常 行為

・条幅随意「梅花雪」「煙」「酒」は左図参照。

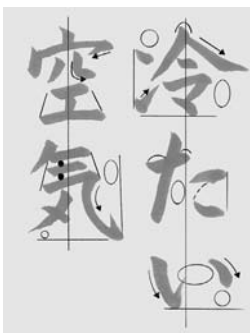
梅花雪 煙 酒

学生部規定



中学二・三年

「近」の二画目は垂直部を長く。「代」の四画目は横画のほぼ中央で交差する。「的」は白を縦長にして、下部をあげる。「思」は田の左右の縦画を内側に向ける。「考」の最終画は折れてから内側に。



中学一年

「冷」は五・七画目の位置を揃える。「た」は二画目の長さや角度に注意し、「い」の二本の線はやや丸みをつける。「空」は心を最大幅に。「気」は気の横画を等間隔にし、メは中心より左側に。

小学五・六年規定【学硬】

小 澗 石 峯 先 生 書

豊かな海を守るため漁師
 さんたちが山に木を植え
 始めました。

石峯支部 年 級段
 名前

小学三・四年規定【学硬】

大 島 皎 山 先 生 書

おには外、福は内。大きな
 声で豆をまき、年の数だけ
 拾って食べた。

石峯支部 年 級段
 名前

小学一・二年規定【学硬】

芦 川 臨 泉 先 生 書

木	に	つ	も	っ	た	ゆ	き
が	白	い	花	の	よ	う	で
き	れ	い	だ				

なまえ 支部 年 級段
 きゆう

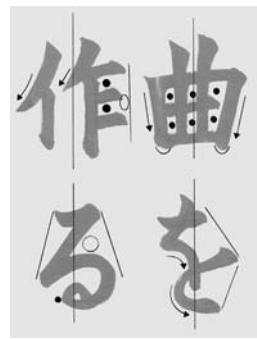
※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位・一般（級位）・中学生はペン使用の
 こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
 作品の大きさを下りたて18cmよこ7cm小一・二課題↓2.1cmのマス目
 の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1cm巾の罫線を引く。



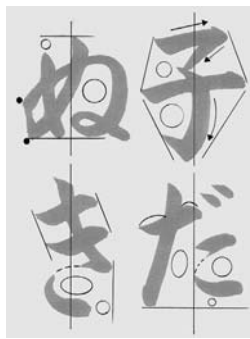
小学六年

「雪」は冠を幅広く、ヨをバランスよく
 さめる。「降」の最終画を止める書き方は
 許容。「る」は三角形を概形とし中心線
 上で結ぶ。「町」は田の空間を均等にし、下
 部をあける。



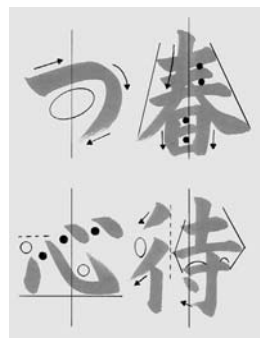
小学四年

「曲」の左右の縦画は内側に向ける。「を」
 は二画目の終筆の位置を中心線上で揃えパ
 ランスをとる。「作」の六・七画目は四画
 目よりやや短く。「る」は最初の横画と最
 後の結びが中心にくるように書く。



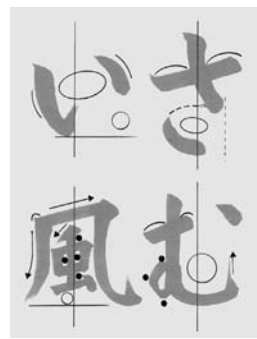
小学二年

「子」の二画目は丸みをつける。「だ」
 は二画目の長さや角度に注意する。「ぬ」
 は、で軽く筆を止めて筆先をまとめるよ
 うにする。「き」は横画と縦画の交差す
 る位置に注意。



小学五年

「春」は五画目の始筆の位置に注意し、
 左右の払いを最大幅に。「待」は中心を
 意識し、旁の幅を広くする。「つ」は右
 上がりに書き始める。「心」の概形は横
 長にし、一・二画目の下辺を揃える。



小学三年

「さ」の一画目は右上がりにし、三画目
 は筆脈を意識する。「む」は、で筆を止
 め、最後は真上に抜く。「い」の向かい
 合う線はやや丸みをつける。「風」の虫は
 几から下に出ないように。



小学一年

「う」は縦長の字形にし、二画目の払い
 抜く角度に注意して書く。「め」の字形
 は横長の円形。腕全体で大きく筆を運ぶ
 ように書く。

古典研究シリーズ ④④ 【古典】

乙瑛碑

後漢・永興元年（一五三年）

今月のテーマ

写実的臨書
大字（二字）



永興



孔子



大聖



神明

書き方

- ①文字数は二字。左の4つの中より選んで書いて下さい。
- ②落款を入れて下さい。
- ③作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。

（編集部）

◆解説

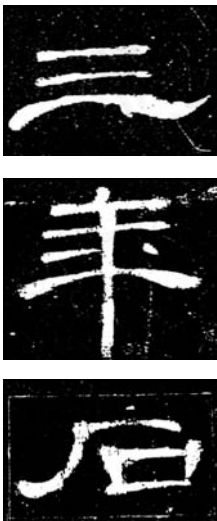
乙瑛碑は、後漢の永興元年（一五三）、魯國の相（大臣）乙瑛の申請により、孔子廟に百石卒史（廟の祭祀を掌る役人）が置かれたことを記念し、乙瑛ほか、関係した人々の功績を讃えた碑です。

碑は現在、山東省曲阜にある孔子廟の、漢魏碑刻陳列館に収蔵されています。

◆特徴

前回の曹全碑は文字のスタイルがよく、優美な波磔が特徴でした。それに対して乙瑛碑は、重厚で雄大、そしてたっぷりとした厚みのある波磔が特徴です。

曹全碑



乙瑛碑



上條信山記念展示室展示作品

No.	作品名	制作年	寸法 (cm)	主要展覧会
1	杜甫詩 「和裴迪登蜀州東亭 送客逢早梅相憶見寄」		44.7×32.0	
2	養心		34.0×68.9	
3	大成若缺		55.9×34.3	
4	天衣		34.0×69.1	
5	無縫		34.5×67.8	
6	崔顥詩「黃鶴樓」		66.6×30.0	
7	至誠		33.9×69.0	
8	野沢凡兆の句		67.0×44.2	
9	悦		69.0×68.2	
10	王昌齡詩 「芙蓉樓送辛漸」	昭和63年 (1988)	109.8×57.2	第32回朝日二十人展
11	吟雪		67.7×138.5	
12	忙中之閑		68.0×69.8	
13	杜甫詩 「春日憶李白」	平成元年 (1989)	58.0×60.0	
14	和敬		67.8×67.9	
15	白居易詩 「賦得古原草送別」	昭和52年 (1977)	62.5×139.0	
16	飛		91.0×104.3	
17	無中之有		69.4×69.8	
18	古絃碑 (拓本)	昭和26年 (1951)	136.0×107.8	
19	魏徵詩「述懷」	昭和17年 (1942)	各195.0×33.4	
20	松柏勁心	昭和44年 (1969)	237.2×65.7	第21回毎日書道展
21	李白詩 「送儲巖之武昌」	昭和33年 (1958)	133.3×64.4	謙慎展
22	大伴家持のうた		136.0×29.4	

松本市美術館は、2002年4月にオープンし、17年が経ちました。その間、記念展示室ではさまざまなテーマで年3回程度の展示替えを行い、その数は約50回を数えます。代表作であればご覧いただく機会も多くなりますが、その陰で展示される回数が少なかつた作品もあります。展覧会出品歴のない作品、若書きの作品、形状により頻繁に展示することが難しい作品など。

今回、これまで日の目を見る機会が限られていた作品にスポットを当て、シリーズで紹介いたします。肩肘張らない率意の作であったり、書風を確立する前の過渡期の書きぶりであったりと、時々生まれた作品たちの晴れ舞台をご覧ください。

松本市美術館 便り

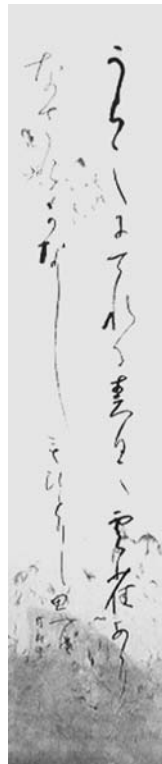
上條信山記念展示室

令和二年二月四日(火)〜令和二年五月二十四日(日)

作品たちの晴れ舞台③



松柏勁心



大伴家持のうた



古絃碑 (拓本)

傘寿記念 ふるさと喬木 田中節山展

会期 令和元年十一月十五日（金）～十二月八日（日）
会場 椋鳩十記念図書館

私は、この美しいふるさと喬木村を離れて間もなく六〇年になります。

平成四年に、喬木村民族資料館において、初めての個展を開かせていただきました。私の喬木中学校時代の同級生の有志グループ（さわやかイレブン）が、その時以来、ずっとご支援して下さいます。あれから二十六年間、飯田での個展「墨躍る 田中節山展」を開いて以来の個展です。喬木村の皆さんには、今までに、私の作品を多く所蔵していただき、うれしい思い出でした。

今年の秋の村の文化祭の一端として、椋鳩十記念館で「傘寿記念 ふるさと喬木 田中節山書展」を開かせていただくことになりました。

感謝の思いでいっぱいです。村役場や村の方々に持ちいただいた作品の一部も展示させていただきますました。

「うちに字を書こう」のイベントでは、永井和尚、金田成仁先生、吉田節城さんにご協力いただきました。ありがとうございます。

村長さんはじめ、村のご関係の方々、同年の諸兄に厚くお礼申し上げます。

田中節山



(45.5×38)



(54×64)



(170×95)



(35×139)



迫力満点のデモンストレーション



丁寧に作品解説をする田中先生



(139×35)



(139×17×2)

田中節山書展を参観して

田中節山先生の三回目となる個展が先生の郷里、長野県の飯田下伊那で開催されました。会場には第五回日展出品作の「剛毅」や、地元の方々が所蔵する半切作品など約四十点が整然と陳列されていました。

清冽な信山バリ、先生の代名詞とも言える渾厚な木簡調をはじめ、調和体や篆書といった個展ならではの表現が実に多種多様な形式で展示されていました。作品を拝見していると「色々やってみると良いよ」というお稽古での何気ないお言葉がふと思い出されました。作家として追求すべき表現の深さ、広さとはどうあるべきか、そのためにどれだけの時間と労力を費やせるか。お言葉の意味を先生の作品を通して深められた反面、改めて自分自身の勉強不足を痛感しました。

会期中には「子供体験イベント」、「ギャラリートーク」が企画され、その時間になると会場は大勢の人達で賑わっていました。ギャラリートークでは、作品に込めた想いや、制作にまつわるエピソード、用具用材の大切さ、師である上條信山先生の教えなど、一点一点分かり易く丁寧に解説をいただきました。また、先生は来場者一人一人に丁寧に対応され、図録にサインをされていました。参観に訪れた高校生にも気さくに声を掛けられるなど、皆さんの笑顔で会場は穏やかな雰囲気になりました。

個展は作家の集大成を世に問う重要な催しです。作品の準備をするだけで大変な労力を要しますが、今回の個展には「書の普及」という、もう一つ重要な意義があったと感じました。ご多忙にも関わらずイベントを開催されたのは、分かりやすい言葉で書の魅力を伝えること、そして、書くことを通じて書の楽しさを体験することを重視されていたからだと思います。このような地道な取り組みが書の普及、ひいては書道文化の担い手の育成へとつながっていくのです。

ご自身の事だけではなく、常に周囲への気配りを忘れない先生らしさに溢れた個展でした。先生の想いは確実に来場された皆さんに届いたに違いありません。弟子の一人として、書風だけでなく、その想いも継承していけるよう、日々精進していくことを誓った一日でした。

(藤森大節 記)

令和元年度秋季師範特待生昇格試験合格者

Table listing names of candidates in various columns, including categories like 師範, 准師範, and 特待生. The names are organized in a grid format with multiple columns and rows.

特待生

小・中学生準八段に達した者は「特待生試験」合格により八段特待生となる。「8級下」から始め、四十二階級を登りつめた栄誉を讃え、賞状ならびに副賞として墨と楮（左写真）を贈るものである。



認定証の申込みについて

師範昇格試験において、正師範・師範・準師範に合格し、その認定証を希望される方は、該当各書体の合格年月を記入した申し込み書に費用を添えて書象会本部庶務部までお送り下さい。

尚、お申し込みいただいてから認定証の発送までに、若干時間のかかる場合がございます。ご了承下さい。

- 正師範 五体 五〇、〇〇〇円
- 師範 一体に付 五、〇〇〇円
- 準師範 一体に付 四、〇〇〇円



看板の頒布のお知らせ

書塾用に看板を用意しております。ご希望の方は左記の要領でお申込み下さい。

◎資格条件
書象誌において、一体でも師範に合格した方。

◎申請料
三万円（送料・税込み）

◎材質・寸法

檜無垢 A タテ六〇cm×ヨコ一五cm×厚さ二cm

B タテ四五cm×ヨコ一三cm×厚さ二cm

※A・B共に貼り函入り

◎申請方法

師範合格書体・年月と御希望の寸法A・Bのどちらかを記入して、申請料と共に書象会庶務部まで、現金封筒でお申し込み下さい。

◎お問い合わせ・申請先

〒180-0011 武蔵野市吉祥寺北町四―三―一六

書象会 庶務部

公・FAX 〇四三―一五三―九七四三



昇段級試験特集

令和年度秋季昇段級試験の合格作品の秀作と審査評を掲載いたします。

合格率は、師範74%（受験者二四名）、準師範62%（同二五四名）、特待生49%（同二三名）と、師範の合格率が高い結果となりました。

漢字の作品では名前の大きさや位置が相応しくないと不合格となった作品も見られます。名前も作品の一部であることを忘れず、日頃から意識してください。仮名の作品では墨が薄い、あるいは渴筆が多いといった作品が散見されました。いずれも用具用材の影響が大きいと思われる。墨液ではなく墨を磨る、仮名用の半紙を使用する等、研究の余地あります。特待生の毛筆では紙面に対する適切な文字の大きさがポイントに、硬筆では字間、行間を意識して書けることが可否の分かれ道となりました。掲載作品を参考に、今後の学習にお役立ていただければ幸いです。

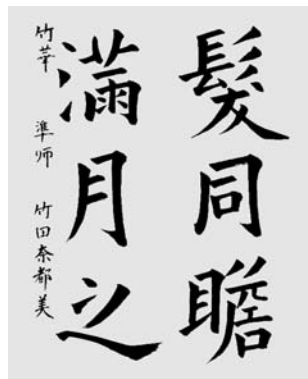
最後に、作品は出品条件を満たした上で提出いただくようお願いいたします。支部名、段級位の書き漏れ、鉛筆を使用した硬筆作品（一般はペンを使用）の他、執拗に二度書きをした作品も確認しました。出品条件以前の問題ですので、どうぞご注意ください。（編集部）

師範 大象 齊藤 美悠



手本に忠実に線が伸び、強くてまっすぐな線が、見事にまとまっています。修錬の跡が随所に光って、随所で大変な品に優れた作品と云えます。

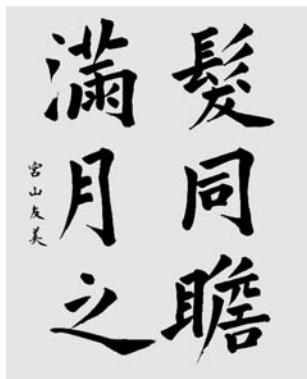
師範 竹華 竹田奈都美



竹華 準師 竹田奈都美

正確な筆遣い、揺るぎのない結体、清々しい密な出来栄、この緊張感を見事に保ちつつ、この緊張感を保ちつつ、練成してほしが、今後は、楽しみながら、

師範 松代 宮山 友美



宮山友美

穏やかで安定感があり、流れるような筆遣い、申し分のない作品、懐かしく、ささやかなる魅力、出でた、

準師範 新城 神林 桃子



新城 五段 神林桃子

の字が大きい、爽やかな感じが、明仕上がる、明仕上がる、明仕上がる、明仕上がる、明仕上がる、

準師範 須坂 富澤 智恭



須坂 準五 智恭

余白の美しさと線の強さ、光の透きかた、この難しさを、この難しさを、この難しさを、この難しさを、この難しさを、

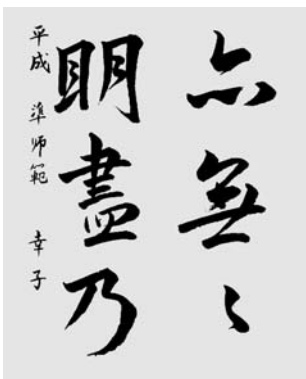
師範 柏心 寺尾 翰舟



柏心 準師 寺尾翰舟

大きな動きで骨力のある線が魅力的である。文字の位置、大きさ、形、全体構成も、見事で、緊張感が漂ってくる。

師範 平成 成田 幸子



平成 準師範 幸子

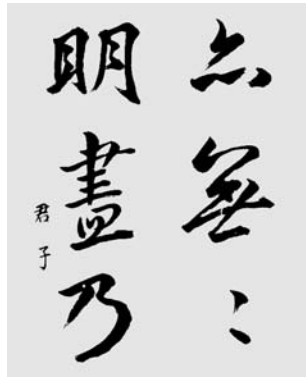
墨量豊かで、線の肥瘦曲直をうまく使い分けて表現している。空間の広さも生かされており、明るい作品となった。

師範 若竹 柄澤 憧月



軽快なタッチで運筆され、線質が伸びやかで美しい。文字構造も広く、格調の高い作品に仕上がっている。

準師範 月 増子 君子



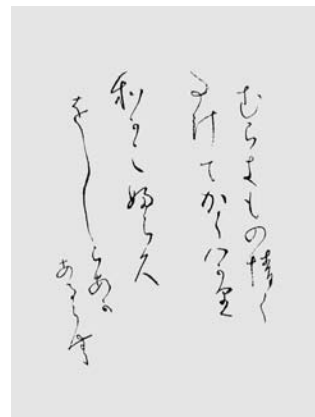
お手本に忠実で、一点一画が丁寧に運筆されている。また上下の流れ、六文字のバランスも整い、練度の高さがうかがえる。

準師範 芙蓉 川名 弘美



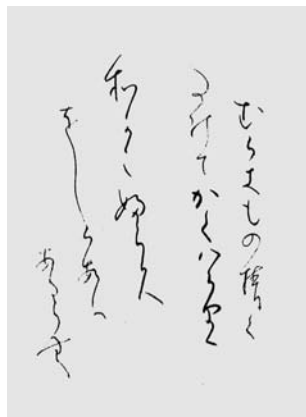
弾力のある伸びやかな線と、懐の広い文字造形が印象的。余白の美しさも見事で、爽快な作品に仕上がっている。

師範 久喜 中谷 美子



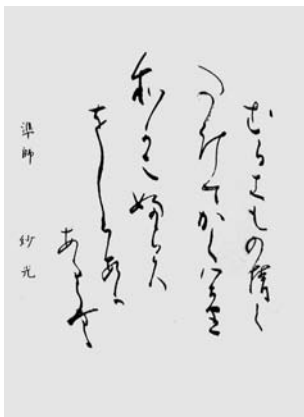
丁寧な筆遣いと穏やかな線質が印象的。確かな執筆法・運筆法で書かれており、しなやかで力強い表現ができた。

師範 玄黙 秦 頼山



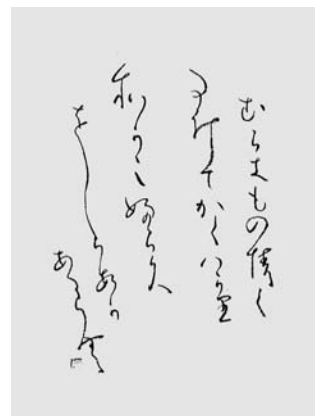
穏やかかつ軽快な筆遣いで明るく仕上がっている。余白も美しい。位置、大きさ、形もよく整い、落ち着いた作品となった。

師範 大島 紗光



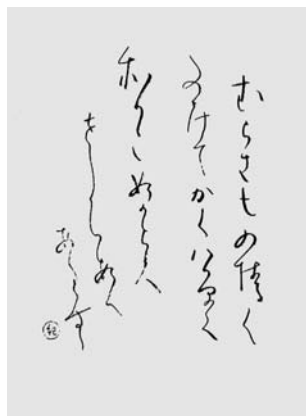
力強く大胆な筆さばきを持続させ、紙面構成も素晴らしい。濃墨であるが、墨色の変化にも富んだ秀作。

準師範 葉月 鈴木 敏子



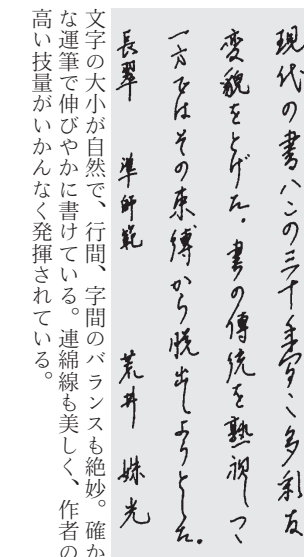
墨量を控えた渴筆主体の表現で上品にまとめた。無理のない筆遣いで書かれた秀作である。

準師範 有象 上原 白麗



形を忠実に捉えようとした努力の結果が窺えない。力みのない筆運びで書かれており、遅速緩急のリズムも良い。

師範 長翠 荒井 妹光



現代の書ハコへの三千五百、多彩な変貌をとり、書の傳統を熟視し、一方をはその束縛から脱却しようとする。文字の大小が自然で、行間、字間のバランスも絶妙。確かな運筆で伸びやかに書けている。連綿線も美しく、作者の高い技量がいかに発揮されている。

準師範 凜心 西野 凜心

現代の書ハこの三平多ク、多利五
ま親とより、其の傳統を熟視つ、
一平よりその東傳から後出とせよした。
凜心 準五段 凜心

広めにとられた字間も緩急をつけた運筆と、気脈の貫通により、精彩あるものとなった。行の流れも美しく、上品に仕上がった。

特待生 伊奈 高木 涉聖

漱石枕流とは、間違いを認め
ずに言い逃れをするような能心
度のことを言う。 伊奈中二準八段
高木 涉聖

硬さが見られるものの、それを補って余りあるほど堂々とした書きぶりがよい。字間、行間に対する意識も高い。

特待生 愛心 佐藤 冴

漱石枕流とは、間違いを認め
ずに言い逃れをするような能心
度のことを言う。 愛心中三準八
冴

行書の特徴に対する理解の深さを感じられる。平仮名も漢字と調和している。全体感も良い。

特待生 瑞祥 大隅 彩加

漱石枕流とは、間違いを認め
ずに言い逃れをするような能心
度のことを言う。 瑞祥中三準八
大隅 彩加

一点一画丁寧で、日頃の努力の成果が十分に發揮できている。今後は緩急をつけて書けるよう、さらに精進してほしい。

特待生 暁華 中島 茉央

町の音
楽会
中三準八
中島 茉央

始・送・終の筆づかいが素晴らしい。字形の整え方も要を得ている。名前の位置、大きさも申し分ない。

特待生 硯扇 松丸 真乃介

町の音
楽会
中三準八
松丸 真乃介

伸びのある素直な線質に特徴あり。文字の概形を意識して丁寧に書けている。配列に於いてはさらなる向上の余地あり。

特待生 房風 長谷川 琴羽

町の音
楽会
中二
長谷川 琴羽

基本に忠実な筆づかいと確かな字形が光る秀作。点画の接し方、組み立て方など、細部に注意を払って書けている。

特待生 名東 澁谷 遥

町の音
楽会
中三準八
澁谷 遥

中心線を通すだけでなく、文字の大小や余白のバランスにも気がつけることができた。墨量の加減も良い。

特待生 若竹 神谷 未来

町の音
楽会
中二
神谷 未来

筆先の弾力を効かせた伸びのある線質がよい。筆づかいへの意識の高さ、整った字形、楷書の特徴が理解できている。

師範



志摩 倉谷 奏風

やや小ぶりだが、位置・大きさ・形ともに良く、明るい作品にまとめた。

師範



麗墨 折笠 琴羽

文字構造が広く、雄大で伸びやかさのある作品に仕上がった。

準師範



聖 井口 碧瑤

スピード感に溢れ、線に切れ味があり全体感も良い。

師範



八戸 谷地 春光

含墨豊かで形も良い。強さの中の甘さが魅力的な作品。

師範



四谷 高杉 景汀

懐広く、力強さと伸びやかさがある秀作。

準師範



茜 佐藤 茜沙

確実な筆遣い、逆筆が冴えた。潤渇の変化が作品の格をあげた。

書象会通信条幅研究会 令和元年度受賞者

◎最優秀賞	島 島	市ノ瀬素州	西垣 光風
納戸 碧雲	島田 壺峰	市村 桜峯	根岸 鈴華
◎優秀賞	嶋埜 壺玉	伊藤 西光	長谷川竹心
遠藤 翠雅	周藤 文界	伊里 草竹	藤本 典楓
小林 真志	宿谷 硯心	岩成 碧舟	古河 松菜
下平 成苑	庄司 朴山	岩橋 祥風	本間 藤花
福井 照雲	鈴木 香扇	宇野 壺裕	牧 恵風
藤井 静素	高橋 壺登	加藤 征光	松岡 馨秀
横田 四葉	高橋 壺登	加藤 汀紅	松田 司峰
◎努力賞	青柳 緑水	飯田 天澄	永田 智翠
青柳 緑水	塚原 花瑤	木下 美泉	百瀬 涼香
飯田 天澄	野口 虹汀	久保田光瑛	山口 智真
井上 雅幸	長谷川石心	煙山 紫瑛	山崎 憬泉
井上 悠水	平野 壺桜	小林 水煌	山下 桂耀
今井 華遥	藤澤 竹虹	齋藤 泰城	山下 春波
岩月 彩紅	堀之上峯山	齋藤 美楓	山中 笑華
上島 壺霄	松尾 詠舟	佐々木永翠	横井 萌玉
大平 遊月	三浦 径石	関口 越山	吉原 明恵
大村 玻玉	三沢 泰仙	瀬野 照鈴	若井 伸珠
垣内 孝仙	宮崎 京楓	征矢野碧空	渡辺 琇心
加藤 穆舟	村山 麗恵	高杉 景汀	◎特別賞
上條 泉山	柳澤 雪葉	田中 満珠	(本年度最高)
北村 照節	山崎 惜春	土屋 寶春	◎特別賞
倉谷 聴月	湯本 香窓	寺澤 春清	(得点者)
小谷 照春	◎皆勤賞	戸塚 豊翠	青柳 緑水
小林 鐘仙	秋葉 景華	長江 喜春	
小林 貞月	和泉 耀光	長江 白羽	
齊藤 汀霄		中邑 弦照	
佐藤 茜沙			

※努力賞以上の方、特別表彰の方の表彰は書象会総会・新年会(一月二十六日十二時より)の席上で行われます。受賞者の方はご出席下さい。

賞の内規

- ・最優秀賞Ⅱ一人一回限り、以後最優秀賞、優秀賞の受賞資格はなくなる。
- ・優秀賞Ⅱ一人二回までとする。但し一回の方は、最優秀賞の受賞資格を有する。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞は、年間皆勤であることが、条件である。
- ・最優秀賞、優秀賞、努力賞には賞状並びにトロフィー又は副賞が与えられる。

令和二年 書象会講習会実施計画

令和二年の講習会・錬成会は次のとおりです。ふるってご参加ください。

二月九日(日) 実技講習会 第五十九回書象展の作品をつくらう
 講師 田中節山先生 藤森大節先生
 会場 武蔵野公会堂
 午前十時から十六時

四月〜五月中旬 ※実技講習会 信山流の書法(基本)
 四月開催予定 かな会講習会
 講師 中村巍山先生 坂牛静心先生
 会場 未定
 午後一時から午後四時
 年間四回実施予定 以下六月 九月 十二月予定

六月十四日(日) ※学生展との連携や講習会など
 六月十四日(日) ※支部長講習会
 六月十七日(水) ※実技講習会 信山流の書法(張猛龍碑)
 十一月月上旬 ※実技講習会 信山流の書法(条幅)

※印は計画中です。
 ・松本市美術館参観企画は展示計画・内容により計画予定です。
 ・夏季合宿錬成会は今年度に限り、東京オリンピック開催に伴う会場確保等困難が予想されますのでお休みいたします。

・信山流地方講習会・支部強化錬成会など地区や支部長・会員の皆様のご要望にの応えるべく努めますので本部までご相談ください。よろしくお願いいたします。
 ・信山流地方講習会・支部強化錬成会の申込書式は本部迄お問い合わせください。
 なお右記日程会場は変更する場合がございます。
 また各研修会の詳細については書象誌・HP・支部長宛文書等でもお知らせする予定です。お問い合わせは本部事務局までお願いします。

研修部

吉見松香書展を終えて

会期 十一月二十五日(月)～二十七日(水)
会場 スペースゼロ・ギャラリー

この書展は、書象会有志の方の発案により、そして田中節山先生、市澤静山先生、内藤望山先生、中村巍山先生方から賛助出品をいただくという強力なお力添えをいただきましたおかげで、実現できた書展でした。改めて深く感謝申し上げますとともに、心より御礼申し上げます。

書展の内容は、森鷗外が私たちに残した言葉を書に表現することでした。行書との調和体はよく見えてきましたが、形にはまった書では面白みがありません。紙の色、形、大きさ、墨の色も工夫をして、書体も隷書や草書の調和体にしたりと、横書きの表現にも挑戦しました。これらの作品が出来あがるまで、先生方からいろいろご指導いただいたことは、今後の作品制作の上になさしていきたくと思っています。

どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。
(吉見松香記)



バラエティーに富んだ作品が並ぶ



吉見先生(左から2人目)を囲んで

第12回櫻の森書道展

会期 十二月十一日(水)～十三日(金)
会場 松本市美術館ギャラリーA・B
主催 櫻の森書道会

北アルプスの山々が白く美しい冬の松本市美術館で、第十二回櫻の森書道展を開催しました。会場の正面には特別出品の上條信山先生、上條素山先生の作品を飾り、その周りに会員の行書、隷書、仮名など様々な書体の大小の作品七十数点を展示しました。

新元号「令和」の出典となった万葉集の「梅花の歌・序文」を書いた作品や、王右丞と蘇東坡の漢詩百首を、全紙二枚を貼った巨大な紙四枚に連ねた樋口先生の大作などが並びましたが、今回はギャラリーA・Bを繋げて使用できたので、明るく広々とした展覧会になりました。

会期中には、多数の来場者がありました。最終日には、樋口先生の作品講評が行われ、会員一同次回展に向けて更なる精進を誓いました。

(上條哲山記)



樋口先生による作品の批評会



出品者がそろって記念撮影

信州書象会 講演会

会期 十一月二十四日(日)
会場 松本市勤労福祉センター
主催 信州書象会

信州書象会では、書道展と講演会を隔年で実施しています。

今年も、十一月二十四日に松本市勤労福祉センターで、荻田光山先生による「小中学校の書写教育（水書用筆の導入を中心に）」の演題で講演会が行われました。これは学習指導要領の改訂で来年度より水書用筆が使われることになるためです。

講演会の前半は映像を用いた水書指導についての解説、後半は鉛筆の先に水書用筆を刺しての実技指導でした。穂先に水をつけて横線、縦線、波線などを書いてみました。最初から文字を書くよりも、書くことを楽しみながら教えていくのが良いのだということでした。

この講習会に参加した信州書象会の会員には、小学生を教えている方も多くいますが、講習会で学んだ内容がきつと役に立つのではないかと思います。

講演会の終了後は、歩いて数分の松本市美術館に移動し、上條信山記念展示室で先生の作品を鑑賞し皆満足して解散しました。
(遠山天妙記)



荻田光山先生による講演



参加者も水書き書道を体験

書き初め講習会に参加して

会期 十二月八日(日)
会場 松本市勤労福祉センター

昨年引き続き、今年も師走に行われた書き初め講習会に中学二年生の生徒三名を連れて参加させて頂きました。会場には長野県内の小・中学生十八名と支部長や保護者十四名が集まり、竹内墨洋先生、寺尾碩雲先生よりさまざまな手本を書いていただき、学校や各地で行われる書き初め展の作品制作に取り組みました。

先生方からは、昨今の小・中学生の作品の傾向、筆使い、墨の付け方などを丁寧に教えて頂いたので、児童・生徒のみならず、指導者にとっても大変有意義な一時となりました。講習会が終わる頃には、見違えるような良い作品を書いた児童・生徒が何人もいました。さらに松本市美術館の上條信山先生記念室の見学では、ビデオ映像の上條先生のお姿や迫力のある作品に見入ったりする生徒たちの姿が印象的でした。このような貴重な体験をさせていただいたことに心より感謝申し上げます。



心をこめて書きました

最後になりますが、今回参加させて頂いた生徒三名は、十月十二日の台風十九号で被災した中学校に通っています。三名とも自宅等の被災は免れましたが、浸水した学校の泥かきや、被災した友人宅の片付けなどを手伝ってきました。残念ながら、年明けの書き初めは中止となりましたが、それでも課題の「力強い前進」を書き上げました。「復興」を目指して、学校、地域の「力強い前進」を願わずにはいられない思いがあったことも、一言つけ加えさせていただきます。
(畔上肖栄記)

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



努力した結果

玄樸会支部 中三

南 賢成

勉強と部活との両立は大変でしたが、毎週休まず通った成果が今回このような素晴らしい形で残せたことを嬉しく思います。これまで指導して戴いた先生にとても感謝しています。有難うございました。
支部長先生より一言 物静かな南君は実はラグビーの選手。内に秘めた気魄は力強さになって文字にも表われています。

特待生になって

練馬支部 中三

高瀬 友理

小学四年生の頃から習字を習ってきて特待生という大きな目標を達成できたことをとても嬉しく思います。ここまでご指導くださった松岡先生に感謝すると共に、自分自身を更に成長させていけるように頑張りたいです。
支部長先生より一言 毛筆と硬筆の合格おめでとうございます。文武両道の落ち着いた姿勢は、後輩達の良き手本です。

感謝

若竹支部 中三

田中 葵

9歳で書道を始められた時から目標としていた特待生になることができてとても嬉しいです。それと同時に家族、先生方にも感謝です。これからも虎井晁鐘先生を目標とがんばりたいと思います。
支部長先生より一言 合格おめでとう。忙しい中休まず頑張りましたね。さすがです!!虎井先生も喜んでくれると思いますよ。



文字と向き合う

青雲支部 中二

小原 一葉

小学二年生から始めた習字。文字をじっくり考えながら書く心が落ち着きます。中学に入り、部活との両立は大変ですが、静かに文字と向き合う時間は大切な時間です。これからも習字を楽しみたいと思います。
支部長先生より一言 おめでとう。部活と両立させ休まず続けている一葉さん。妹優子さんのよいお手本です。

感謝

富士見支部 中二

宮岡 健士郎

僕は、野球をやりながら、習字も習っていました。今回、特待生になれたのは、親と先生のおかげだと思います。親と先生には、すごく感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに、今後生活していきたいです。
支部長先生より一言 特待生合格おめでとう!!野球で忙しい中、両親の協力と努力の結果です。更なる飛躍を期待します。

特待生合格

練馬支部 中三

矢野 ことり

今回特待生になることができたのは、先生がこれまで優しく丁寧に教えて下さったからです。本当にありがとうございます。これからも頑張ります。
支部長先生より一言 合格おめでとう。休むことなく継続した結果ですね。毛筆合格まであと少し、一緒に頑張らしましょう。



特待生になって

若葉支部 中三

長山 莉緒

今回、毛筆の方で特待生になることができて、頑張ったよかったです。私は左利きで、習字を始めた頃は大変でした。それでも、お稽古を続け、この結果があり、とてもうれしく思います。
支部長先生より一言 莉緒ちゃん、合格おめでとう。あとに続く左利きさんに勇気と希望を与える合格です。この調子で。

努力

伊奈支部 中二

茂呂 和奏

今回、毛筆で特待生になれたこと、とても嬉しく思います。今まで努力してきたことが報われたように感じました。これからも、自分の字が上達するように、よりいっそう努力していきます。ありがとうございます。
支部長先生より一言 二冠達成おめでとう!!人の何十倍も努力した結果が字に表れています。今後も期待しています。

感謝

伊奈支部 中二

上林 舞衣

私は今回、初めて硬筆で特待生になることができた。特待生になることができたのは、毎週指導して頂いている先生のおかげだと思います。ありがとうございます。このまま毛筆も今年中に特待生合格したいです。
支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう!!コツコツ積み重ねてきた努力の証です。目指せ二冠、一緒に頑張らしましょう。



△漢字条幅▽ 評 山口 啓山

林田翠山 安定した造形と点画の張りが冴える。

嶋埜壺玉 筆勢に富んで全体に緊張感が漲る。

渋谷静秀 墨量充分で豊かなムードで圧倒。

下平成苑 五文字の調和が実に良く落ち着きあり。

関澤劍山 心地良いリズムで一気呵成に仕上げた。

竹野翠紗 基本に忠実で緻密な写実性が抜群。

珠 悠 文字構造に余裕があり心のゆとりを感ず。

菊地恵爽 腕法が効いて線の伸びが限りない。

△条幅随意▽ 評 内藤 望山

齋藤優月 軽快なリズムの中にも強さを感じる作品。

藤澤竹虹 含墨豊かに重厚な線で落ち着きのある作。

金子葉蕉 墨量、骨力充分で気力の充実した作品。

△通信条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

三沢泰仙 形の安定感ほ流石。落款も良い。

嶋埜壺玉 線質に雅味あり安定した作品となった。

渡辺琇心 細線が琴線のように響き、筆の開閉を会得した。



基本課題

評 中村 嶺山

杏、静 手本に忠実で骨力もあってみごとな作。
 統 華 のびのある線で清々しさを感ずる。
 美 佐子 大胆な運筆で躍動感あり。重厚な作。
 賢 山 淡々とした作で、優雅な雰囲気がいよい。

研究課題

評 竹内 墨洋

島村霞嘗 行意のよく効いた躍動感が目を引く快作。
 関 窓真 懐抱的な文字構成で広がりのある表現。
 浅井菖風 左右のバランスよく、安定した行書作品。
 塚原花瑤 字形よく全体の配字が特にすばらしい。

古典課題

評 内藤 望山

青木小琴 太めの線で多字数を統一した努力作。
 佐藤京香 線に主観を加え、細太遅速で立体化した。
 天谷茜草 原帖の形に自由な躍動感を加え楽しい作。
 上條恵香 形体に主観を加え、筆力と強さを發揮。

師範部

△行書▽

評 柳澤 玄嶽

小柳貞松 洗練された行書の風格と気力共に佳。
 日比野照悦 流れは明朗快活、温順さと折り目有り佳。
 小暮静翠 清冽で伸びやかな線、甘いムードも漂う。
 菅野芋里 藏鋒が効いた無理の無い運筆格調高し。
 高平光紗 流麗な線と爽快さ溢れる作。余白美も佳。
 久保田麗香 正確な字形把握、弾力と渋味有る力作。
 石沢秀庭 爽やかな墨色とスピード感が相俟った作。
 加藤穆舟 伸びやかで強い線質。気力溢れる佳作。



田島涛仙 腕法良く、骨力に溢れ大胆な運筆大佳。

山本汐香 写実的で点画の余白も明るく格調高し。

河田邦楓 抑揚豊かで味わいのある線、構成も見事。

田上耀楓 写実に徹した真面目な姿勢が光る佳作。

佐藤尚山 素直な筆遣いで、リズ感良くまとめた。

馬場采葉 日頃の精進が窺える流麗で安定感有る作。

古川琇光 用筆法が巧みで、基本に忠実な秀作。

柳沼秀光 含量豊かにして重厚な作に仕上げた。

〈仮名〉 評 荻田 光山

山本汐香 堂々とした書きぶりで、構成も見事。

中田秀麗 力味なく自然な運筆の中に魅力あり。

玉井麻子 開き気味の筆を上手に操り、骨力よし。

嵯峨我山 腕法に力があり、文字の大小表現も大佳。

桑野小琇 自由自在な筆遣いで、行立てが美しい。

平野重子 運筆に貫通力があり、全体観も秀逸。

西村宏美 基本に忠実な筆運びが魅力的な作品。

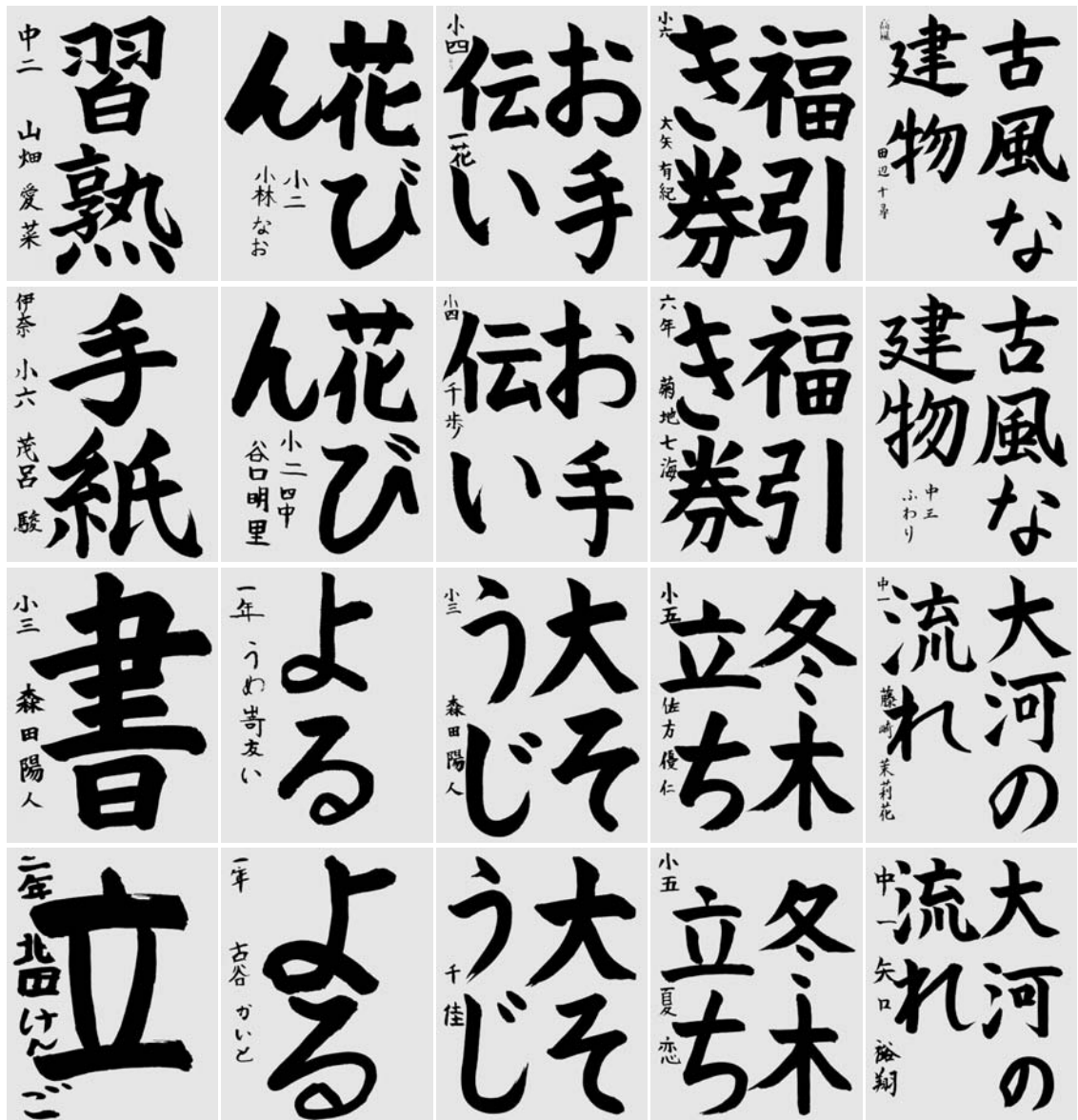
井上悠水 このレベルで書いてほしいという典型作。

折笠琴羽 細大や墨色の变化など、見事な作品。

森島美光 線表現が豊かで、心魅かれる美しさあり。

中野 恵 一貫した線の太さが全体をまとめている。

川田 麗 小筆の性能を十分に發揮し、骨力十分。



学 生 部

評 寺尾 碩雲

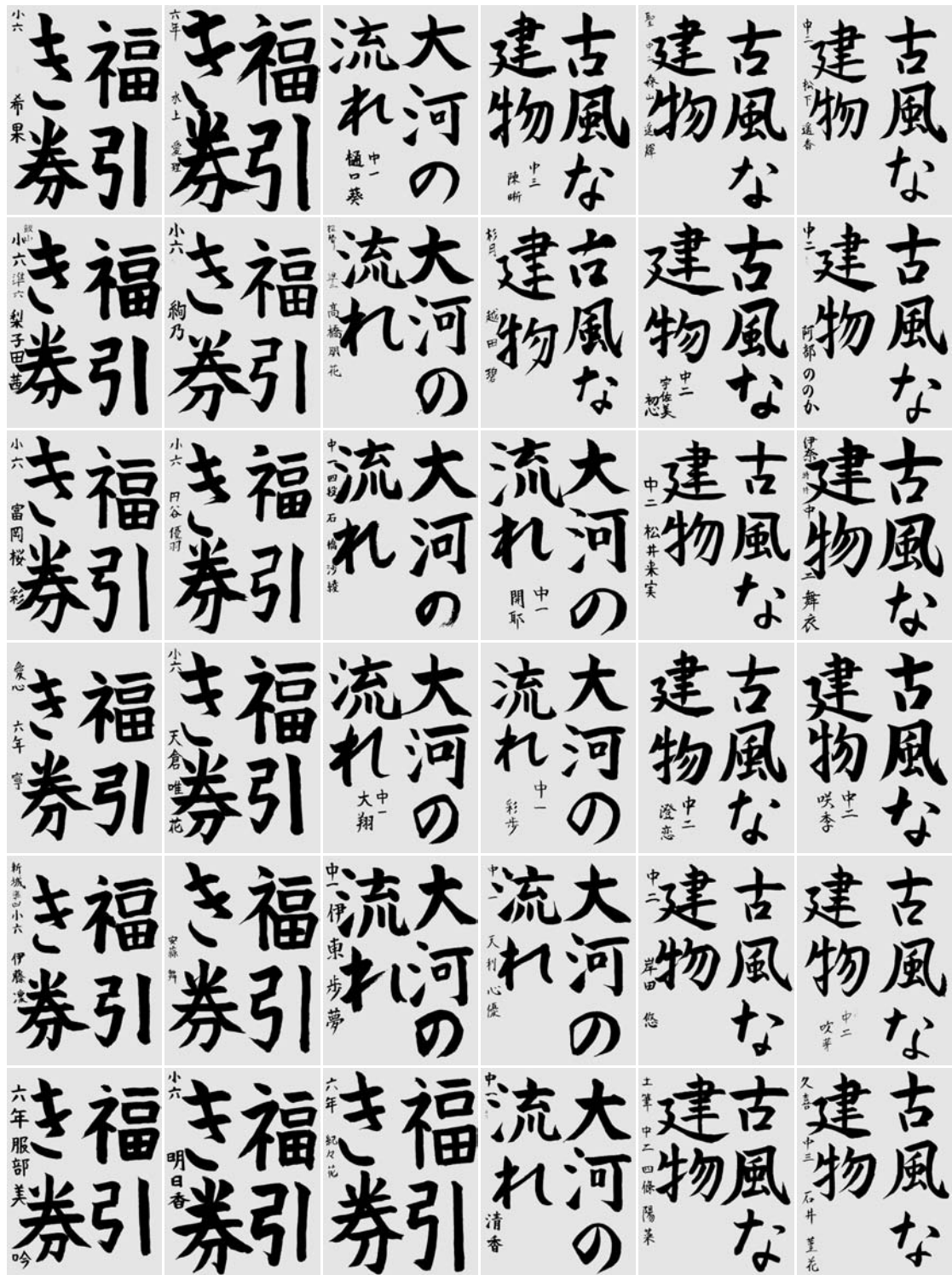
田辺千尋 文字の大きさ、字形、位置とても良い。
 山岸ふわり 起筆がきれいで、字形も躍動している。
 藤崎茉莉花 トメ、ハネ、払いが美しい字形です。
 矢口裕翔 大胆な書きぶりで、名前も大変うまい。
 大矢有紀 紙面いっぱい、堂々と力強く書けた。
 菊地七海 伸びやかな線、字の形も上手だ。
 佐方優仁 腕の動きが雄大で、字形も良い。
 小椋夏恋 筆使いが軽快で、さわやかにまとめた。
 尾川一花 勢いのある線「い」の字が特に良い。
 上島千歩 真面目な書きぶりが伝わってきて良い。
 森田陽人 ひらがなと名前がとも上手に書けた。
 林 千佳 のびのびと書けた。字形もうまい。
 小林なお 力強く書き上げた。名前も上手です。
 谷口明里 集中して、一点一画しっかり書けた。
 梅崎友結 筆を立てて、きちんと書きあげました。
 古谷かいと 子どもらしくのびのびと書けました。

半紙 随意

評 芦川 臨泉

山畑愛菜 一点一画おろそかにせず堂々とした作品。
 茂呂 駿 始筆、送筆、終筆がしっかりした作品。
 森田陽人 太く、紙いっぱい力強く書けました。
 北田けんご 大きく、りっぱにかけました。

このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。



〔毛筆〕
 〔中二・三〕 美苑 松下 遥香
 華雪 阿部のの
 伊奈 上林 舞衣
 名東 近藤 咲季
 正桂 高橋 吹芽
 久喜 石井 蓮花
 聖山 森田 通輝
 硯扇 宇佐美 初心
 富土 松井 来実
 宇土 園川 澄恋
 千曲 岸田 悠
 土筆 四條 陽菜
 宝仙 陳 陽菜
 杉月 越田 碧
 〔中一〕 堀 開耶
 名東 飯島 彩歩
 天台 飯島 心優
 高社 天利 清香
 華雪 樋口 葵
 中野 樋口 葵
 松聲 高橋 朋綾
 小光 石橋 沙綾
 秀雪 澤田 大翔
 光丘 伊東 歩夢
 〔小六〕 窪田紀々花
 山愛 水上 愛理
 神奈 小野山 優乃
 華雪 小野山 優乃
 竹華 円谷 唯花
 優生 天倉 唯花
 映心 安蒜 舞
 光丘 柴原明日香
 倭山 三上 希果
 飯山 梨子田 茜
 玄黙 富岡 桜彩
 愛心 佐藤 凜
 新城 伊藤 凜
 大田 服部 美吟

立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
宮川三段 九田 伸		大塚 俊	石川 未空	土井和葉	杉小六 岡本優奈	
立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
小五 百井 梓	五年 河野 敦也	五年 白村友翔	美菜五年 石原 明	小六 那菜	小六 原田 流奈	
立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
小五 在 加見 銀河	五年 藤澤 心花	小五 本 紡	小五 上野 快	六年 森下 直音	小六 野澤 奏音	
立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
五年 蟻川 美欧	五年 柳本 深利	五年 佐藤 煌典	大塚特一 安田 有花	茅野小六 大島 咲絢	小六 安部 凜	
立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
深初 大竹 莉緒	小五 瑞 姫	小五 村上 優	小五 栗莉	小六 村上 祐人	小六 阿部 桜乃	
立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	立冬 ち木	福引 き券	福引 き券
小五 佐山 優音	杉小五 桑原 梓	小五 礼奈	種村 さくら	小五 柳沼 里緒	小六 倉田 きらり	

有穂 石峯 この 八潮 高社 宮川 杉 綾華 源創 湊 硯 知床 秀雪 華雪 平成 若松 書之 高風 珠紅 月 大阪 北府 美菜 練馬 竹華 〔小五〕 さわ 茅野 皓花 秀雪 玄樸 中野 大野 若竹 硯扇 練馬 杉
佐山 大竹 蟻川 古賀 百井 丸田 桑原 六川 柳本 藤澤 河野 倉澤 伊藤 村上 佐藤 池田 西村 大塚 種村 小澤 安田 上野 石原 石川 柿沼 村上 大島 森下 石田 那菜 土井 和葉 倉田 阿部 安部 野澤 原田 岡本
陽奏 莉緒 美欧 銀河 柚香 梓 瑞 海 心 敦也 礼奈 優 煌典 杏紗 友翔 優 種村 栗莉 有花 かい 明 未空 里緒 祐人 咲絢 直音 那菜 桜乃 凜 奏音 流奈 優奈

小三 遠とう かんが	大う じそ	大う じそ	四年 小林 愛莉	お い手	四年 市川 美邑	お い手	五年 岡田 彩愛	冬木 立ち
小三 毎田 樹史	大う じそ	大う じそ	鈴鹿 小四七 中いそ 部大翔	お い手	和 田 蒼葉	お い手	小四 中山 万穂子	お い手
小三 藤木 幹太	大う じそ	大う じそ	小四 備い	お い手	小四 内海 陽南子	お い手	小四 嶋 音	お い手
小三 りん	大う じそ	大う じそ	小四 結い 月	お い手	小四 平居 みなみ	お い手	小四 大田 結月	お い手
三年 けいじ	大う じそ	大う じそ	太政	大う じそ	小四 刀根 純鈴	お い手	四年 陽	お い手
小三 解良 侗仁	大う じそ	大う じそ	三年 道端 可十和	大う じそ	小四 大橋 菜緒	お い手	小四 小筆 舞花	お い手

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 玄黙 | 宮地 | 凜心 | 房風 | 練馬 | 星 | 硯 | 霞墨 | 秀雪 | 華雪 | 花蓮 | シ | 書之 | 雅 | 上尾 | 有虹 | 鈴鹿 | 湊 | 瑞祥 | 水代 | 練馬 | 霞墨 | 玄樸 | 柏心 | 秀雪 | 平成 | 若松 | 青雲 | 皓花 | 一葉 | 照澤 | 成城 | 秦野 | 名東 | めぐ | 千曲 |
| 解良 | 田中 | 推名 | 藤木 | 毎田 | 遠藤 | 高橋 | 増山 | 武下 | 清水 | 立花 | 藤井 | 道端 | 山崎 | 猪俣 | 俣田 | 磯部 | 小林 | 大橋 | 平居 | 内海 | 和田 | 市川 | 小筆 | 津久 | 原口 | 山岸 | 中本 | 皆川 | 三沢 | 岡田 | 太田 | 中川 | 中山 | 岡田 | |
| 侗仁 | けいじ | 凜 | 幹太 | 樹央 | 葉那 | 蒼 | 奈 | 太郎 | 暖 | 暖 | 々 | 和 | 太政 | 結月 | 大翔 | 愛莉 | 菜緒 | 菜緒 | み | 陽南子 | 蒼葉 | 美邑 | 舞花 | 七海 | 純福 | 愛花 | 拓実 | 結月 | 結月 | 璃音 | 悠子 | 彩愛 | | | |

一 あん いづみ	よる	ん ゆい 花 び	ん 林 知 翔 花 び	う 小三 大 じ そ う 大 じ そ	う 小三 大 じ そ う 大 じ そ	う 三年 大 じ そ う 大 じ そ
小一 まき	よる	ん 二年 花 び	ん 二年 花 び	う 二年 大 じ そ う 小三 大 じ そ	う 二年 大 じ そ う 山口 大 じ そ	う 朝日 三年 大 じ そ う 三年 大 じ そ
止 ひな	よる	ん 小二 花 び	ん 小二 花 び	ん 小二 花 び	う けい 大 じ そ う 下 大 じ そ	う 小三 大 じ そ う 三 大 じ そ
小一 石井 み月	よる	よる	ん 小二 花 び	ん 二年 花 び	う 小三 大 じ そ う 美 大 じ そ	う 李光 三年 大 じ そ う 三年 大 じ そ
六 よこ	よる	よる	ん 小二 花 び	ん 二年 花 び	う 小三 大 じ そ う 佳 大 じ そ	う 二年 大 じ そ う 二年 大 じ そ
小一 かれん	よる	よる	ん 小三 花 び	ん 小二 花 び	う 大阪 大 じ そ う 大 じ そ	う 龍文 大 じ そ う 大 じ そ

有穂 美二 華雪 光丘 有虹 山愛 千曲 皓花 有象 皓花 光丘 華雪 秀雪 中野 霞墨 この 宝春 玄黙 新濁 山愛 八潮 一葉 蔵 大阪 虹苑 竹華 溪月 皓花 一絵 龍文 山愛 李光 長寿 朝日 好野
 内田 藤平 石井 古谷 俣田 風間 藤川 牛丸 廣瀬 田畑 今井 蓮尾 千葉 津呂 東本 渡邊 渡辺 林 壽山 中沢 瀧口 奈良 内川 牧野 池田 榎屋 松村 河野 山口 薄井 市之瀬 加藤 高品 羽石 栗原 鈴木
 華蓮 耀子 都月 陽菜 麻希 維吹 真綾 詩菜 若葉 結彩 柚香 寛太 紗英 颯心 杏奈 知翔 優月 琳奈 美温 朱音 慧斗 佳利 美音 美南 奈々 まな 利佳 楓 人 実 の 希

一つの芸術品の観察に於けるのハ我等
 う知つて居る中で最も明瞭なる最も深い
 また最も鋭敏した傍聴である。
 五條中花 香琳

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。中二 五條
 三井 陽菜

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。連中一 六條
 塩谷 華伶

コップや茶わんなど、食器
 には円柱形や円すい形に近
 いものが多い。高社 五ノノ
 増田 健吾

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。練馬 四ノ二
 三浦 花歩

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。下町 三ノ四
 西口 乃々花

を	お	か	あ	さ	ん	と	子	と
し	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
ま	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
す	を	し	ま	す				

中二 五條
おん田りほ

一つの芸術品の観察に於けるのハ我等
 う知つて居る中で最も明瞭なる最も深い
 また最も鋭敏した傍聴である。
五條中花 香琳

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。中三
 川口 菜香

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。穂乃

コップや茶わんなど、食器
 には円柱形や円すい形に近
 いものが多い。中三 六ノ二
 神澤 安那

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。杉並 四ノ六
 坂田 史

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。真石 海野

を	お	か	あ	さ	ん	と	子	と
し	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
ま	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
す	を	し	ま	す				

中三 六ノ二
あみろ

だいたい、私、若気の過ちを通過し
 て、ない人間も信用しない性質
 なんで、山田詠美のことば
華智 文都 望月 松井 佑菜

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。中二 四段
 坂田 ころ

コップや茶わんなど、食器
 には円柱形や円すい形に近
 いものが多い。中二 六ノ七
 成田 しおり

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。北野 四ノ五
 青木 瑠南

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。仙谷 三ノ三
 庄子 夕那那

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。神奈川 五ノ二
 五ノ風 聖

を	お	か	あ	さ	ん	と	子	と
し	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
ま	も	べ	や	の	大	そ	う	じ
す	を	し	ま	す				

中二 四段
関詩織

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。美那 中二 舞月
 井伊 彩月

冬至の日、風呂の湯にユズを
 浮かべる。これに入れば無病
 息災と伝えられる。夏屋 中二
 菰島 苑女

コップや茶わんなど、食器
 には円柱形や円すい形に近
 いものが多い。中二 五ノ五
 大槻 志穂

学校の近くにある温室で
 は、冬でもきれいな花が
 さいいています。高社 四ノ三
 恩田 菜乃子

- (硬筆)
- 【一般】 玄撲 香琳 大阪 廣中 千鶴 華雪 松井 佑菜
 - 【中学】 美那 井伊 彩月 美那 三井 陽菜 有象 川口 菜々香 大象 坂田 ころ
 - 【小一・二】 震墨 萩島 琉女 凜心 塩谷 華伶 山愛 清水 穂乃 小五・六 穂乃
- 倭 大槻 志穂 高社 増田 健吾 石峯 神澤 安那 北府 青木 瑠南 若松 恩田 菜々子 練馬 三浦 花歩 杉 坂田 史 仙台 庄子 采那 玄撲 西口 乃々花
 - 【小一・二】 星 真砂 海聖 雅 五十嵐 里緒 平成 奥田 莉歩 華雪 宇佐見 千咲 港南 関 詩織

高游	新	漢	北長信若大	榉珠高巍玄	巍石靜書文若	文飯大長土玄大	藏巍大榉	白高青	飯巍硯霞八若玄榉磯大靜
風墨	城五	字	府野大竹家	森紅風山樸	山峯集化竹化	田象翠曜心	山家森	山風雲	田山墨潮竹樸森
小周麻佐林藤麻以真文菜子夷	段	漢	準映梓冠西素師	文珠白小春佐	霞瑤秀雨	雨	雨	照靜竹成	成溪硯夕陽冠袖涼葉玻靜琴
長八四富大	中	寶	觀柏樞珠	墨文映綾	眺樞霞	霞源柏妻笠	中葉東	大高	瀨東雅
野戶谷貴	野	春	心友悠	洋化心華	月森墨創	科原勢	陽	風	準
美工渡藍及久鐘春裕真綵瑞半段千節	久	島	雪岡輪春	桂山村林	篁佐	段	三清宏	井古	明三
藤田川保	山	原	瀨玉	瀨玉	愛敦	怡玉	五健雅	葉葉	泉
香和琇香翠田榮幸美理舟遙	波	舟	生智	霞	舟瑤雅	玉	美	孝	美
巍若須	笠	葉	長靜	京游	眺樞	中東書	玄靜	玄野	玄花
山竹坂	原	月	野墨	月森	野陽	泉	竹	三	點
貞柄白手石啓白鈴	知	相	和友	眺碧	山祥	望	武	章	榎
澤木塚井井木	美	木	美	田	上	居	原	敬	淳
松憧智希和子美敏子	真	子	美	代子	蓮空	采	小	清	典
藏靜長大	若	珠	須	笠	美	長	霞	樞	大
野坂	竹	準	初	葉	森	大	珠	八	大
閔佐中後清	津	山	小	孝	謙	廣	平	福	華
文藤西藤水	田	多	口	浦	齋	子	倉	中	仁
子里智田	恭	智	文	祥	翠	田	師	菜	賀
長磯有笠乙	乙	美	珠	港	小	杉	曉	高	八
翠	迎	原	訓	生	悠	南	平	月	風
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇級能麗和	赤	永	佳	級	立	桐	慶	鹿	紅
條	葉	濱	扇	扇	原	川	原	流	子
正	勢	陽	美	扇	扇	扇	扇	扇	扇
玄正	新	大	新	宮	四	四	杉	沙	花
樞桂	城	象	城	地	谷	南	谷	羅	苑
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇級能麗和	赤	永	佳	級	立	桐	慶	鹿	紅
條	葉	濱	扇	扇	原	川	原	流	子
正	勢	陽	美	扇	扇	扇	扇	扇	扇
玄正	新	大	新	宮	四	四	杉	沙	花
樞桂	城	象	城	地	谷	南	谷	羅	苑
〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇級能麗和	赤	永	佳	級	立	桐	慶	鹿	紅
條	葉	濱	扇	扇	原	川	原	流	子
正	勢	陽	美	扇	扇	扇	扇	扇	扇

Main table containing names of individuals and their corresponding grades/levels, organized by school district. Includes a '小・中学校の部' (Elementary and Junior High School Division) section.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with columns for rank (e.g., 3級, 2級, 1級), name, and affiliation. Includes various symbols like squares and circles indicating status. The table is organized into several sections, likely representing different regions or groups.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 20 rows of Japanese text, including names and numbers. The text is organized into columns and rows, with some cells containing specific names and others containing numbers or symbols. The table is a complex grid of information, likely a roster or schedule for a club or organization.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

船橋・書之会・芙蓉第一・芙蓉第五・平成・宝春・房風会・星・前原・松戸・三池・水代・美苑・美菜・美那・湊・みなみ野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・めぐみ・杜の会・八潮・倭・有家・有家虹

Table with 10 columns and 10 rows of names and numbers. Each cell contains a name (e.g., 林優衣, 香徳, 坂南) and a number (e.g., 7, 6, 8). The table is organized into sections by club names listed on the left margin.

Table with 5 columns and 15 rows of names and grades. The table lists names and their corresponding grade levels (e.g., 5上, 4中, 3下) across various categories. The names are organized into columns, with some names appearing in multiple rows. The table is a detailed record of participants and their grades.

注意 1. バーコード出品券と作品の段級位の不一致にご注意下さい。
2. バーコード出品券には必ず〇印と段級位等を、作品には段級位、名前を書いて下さい。
3. バーコード出品券の種別（臨規や仮規等）の〇印の誤りに、ご注意ください。
※上記の誤りがあった場合、正しい登録名列の各段級位の最後列にお名前が入っています。

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第82回 謙 慎 書 道 会 展

第一会場・東京都美術館
期 日・3月18日(水)～3月23日(月)

午前9時30分～午後5時30分まで
(入場は閉室の30分前まで。最終日は午後2時閉会)

第二会場・池袋サンシャインシティ
ワールドインポートマートビル4階
期 日・3月17日(火)～3月22日(日)

午前10時～午後6時まで
(入場は閉館の30分前まで。最終日は午後4時30分閉会)

◇第二会場には特別賞選考委員の小作品を展示いたします◇

主 催 ・ 謙 慎 書 道 会 社
後 援 ・ 読 売 新 聞 社

【第一会場 東京都美術館】

〈デモンストレーション〉 3月18日(水) 11時・14時
〈ギャラリートーク〉 漢字 3月19日(木) 11時・14時
漢字 篆刻 3月21日(土) 11時・14時
漢字 仮名 3月22日(日) 11時・14時

〈特別企画〉

『文字の動物園』 3月18日(水)～23日(月)10時～16時30分
(最終日は13時30分終了)

【第二会場 池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル4階】

〈ギャラリートーク〉 3月21日(土) 14時

〈特別企画〉

『文字の水族館』 3月17日(火)～22日(日)10時30分～17時
(最終日は15時終了)



書象会便り

◆第82回謙慎書道会展

標記の第一回添削会が令和元年十二月二十二日(日)武蔵野公会堂において開催されました。当番審査員の先生方から、一点一点丁寧に寧ろ注意や指導が行われました。一月十三日(月)祝は武蔵野スイングホールでの添削会がありました。二月二日(日)の作品提出には、努力作品が出品できるように頑張りましょう。

◆令和二年年度理事会

一月十三日(月)祝午後四時から武蔵野スイングホールにおいて、令和元年年度事業報告ならびに決算報告、令和二年年度事業計画ならびに予算等が協議されました。

◆第82回謙慎書道会展(東京都美術館)

〈デモンストレーション〉 十一月十一時
日 三月十八日(水) 十一月十一時
本会、杉山曉雲先生による席上揮毫が行われます。

〈ギャラリートーク〉

本会、山口啓山先生によるギャラリートークが行われます。
※皆様、是非ご参集下さい。

〈書展報告〉

☆第38回世田谷の書展

会期 一月五日(日)～十二日(日)

会場 世田谷文学館

出品者 竹内青紗(本会関係)

☆第69回福井書法展

会期 十二月二十日(金)～二十二日(日)

会場 福井県立美術館

本会関係受賞者

特別部門 〈特別賞〉長谷川清風

一科 〈特別賞〉佐孝美也子

二科 〈特別賞〉北川高月

三科 〈特別賞〉秋山綾子

四科 〈特別賞〉清兼実紅 山田俊歌 山田真菜

〈お詫びと訂正〉

一月号「楷書臨書規定」の釈文「圓」は「圖」の誤りでした。お詫びし訂正いたします。

発行人 (有) 書象
代表 上 條 節 夫

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六

郵便番号 180-0001 電話 〇四二(五三)九七四三

振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一

振替名義 (有) 書象

印刷所 株式会社 リンクス

氏名